

令和 8 年度

運営に関する計画

令和 8 年 4 月 1 7 日

大阪市立南住吉小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和 7 年度は前年度の反省を踏まえ、以下の 3 点に特化した学校運営を進めた。

①「いじめのない安心安全な学校づくりに向けたさらなる取り組みの深化充実を図る」

②「ICT 機器の授業での活用を推進」

③「教員の授業力向上と児童の学力向上に向けた取り組み」

①については、「いじめ防止基本方針」の全教職員の共通理解と子供や保護者への丁寧な対応や、いじめアンケートの事前・事後指導の確認と徹底、そして、いじめ対応記録の保管場所や聞き取り内容の共通理解の体制づくりが進んだ。

②については、心の天気習慣化や ICT 推進委員会を立ち上げ端末活用事例や取り組みの共有を行ったり、子どもたちのタイピング大会を開催したりした結果、端末活用率は令和 6 年度から 50 ポイントの大幅上昇した。

③については、がんばる先生事業や学力向上支援チーム事業など大阪市の施策を活用し研究を進めた。研究のパッケージ化や他校との共同研究体制の構築、先進的な取り組みを行う学校への視察や研究発表会への参加を進めた。また、学習者用端末を活用し、作成したものを TV モニタを使って全体で共有するなど思考し深め合う授業改善を進めた。その結果、経年調査市平均正答率に対する校内平均正答率 7 割未満の割合が 7~11 ポイントの大幅減少 (3 年 23→12.6 4 年 23→16.7 5 年 20.3→11.3 6 年 28.3→16.7) が見られ、学力の底上げが進んだ。

以上のような成果が見られた。

課題としては、①にかかわる「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目の数値が前年度より 2.1 ポイント低下した。②に関わる学習者用端末の活用率は進んでいるが授業での活用が進んでいない。③に関わる話し合い活動については、本年度取り組んだ子どもが思考する授業は進んだが、子ども同士で学びあう授業については指標の数値が下がっている。

令和 8 年度も『ことば』を大切にすることをテーマに、3 つの取り組みを進め、生活指導を土台とした、学びの環境を整備し、学びあう子どもたちを育てていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。

○「自分にはよいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○大阪市小学校学力経年調査におけるボリュームゾーンにあたる層の変化率を向上させる。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点の対全国比を向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

○「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を向上させる。

○「学校の授業時間以外に、普段、1 日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか。」に対して、「読書を全くしない。」児童の割合を減少させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82.0%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70.0%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82.0%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切を認めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 79.0%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より 1.5 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における、算数のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より 1.5 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80.1%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 0.02 ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 76.0%以上にする。
- 教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 23 時間以下とする。
- 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない。」と回答する児童の割合を 28.0%以下にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

(様式例 2)

大阪市立南住吉小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82.0%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70.0%以上にする。 ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82.0%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切を認めることができるていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 79.0%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【1、安全・安心な教育環境の実現】（学校規律） 「南住吉 10 のルール」「南住吉小学校のきまり」を活用して、全教職員が同じスタンダードで生活指導を行う。また、生活週間を実施し、学校規律を意識させ、自分は守れているのかを振り返る機会を設ける。これらの取り組みを通して、規範意識を醸成させ、どの児童も安心・安全に過ごせる学校にしていく。	
指標 南住吉 10 のルールを月目標として毎月提示し、教員がその大切さについて指導する。また、年 3 回「生活週間」を実施する。	
取組内容②【1、安全・安心な教育環境の実現】（いじめ） 「いじめ基本方針」を全教職員で確認する。児童に対しては「思いやり週間」を実施し、児童がいじめについて考える機会を設け、人を思いやる心を育てる。また、心の天気や相談機能を教員が確認し、児童の心の状態の把握に努める。気になる児童へは声をかけ傾聴の姿勢で困ったことはないか聞き取る。そして、組織として、学年会、生活指導部会、いじめ対策委員会で生活指導上気になる児童について共通理解をする。これらの取り組みを通して、いじめの未然防止、早期発見につなげる。また、教職員は相談できる相手という信頼関係を児童と築き、安心・安全に過ごせる学校にしていく。	
指標 4 月に教職員で「いじめ基本方針」を確認する。心の天気を毎日確認する。「いじめ・いのちについて考える日」に全校集会開き、全校児童でいじめについて深く考える。また、「思いやり週間」を学期ごとに実施する。教職員間では、学年会毎週、生活指導部会・いじめ対策委員会は毎月実施する。	

取組内容③【1、安全・安心な教育環境の実現】（不登校） 昨年度策定した「不登校対応方針」と不登校対応フローチャートに沿って「チーム学校」で対応する。不登校児童に対して、登校支援ルーム「ぽかぽか」の活用や外部機関と連携し登校支援を行う。心の天気や相談機能を教員が確認し、児童の心の状態の把握に努める。気になる児童へは声をかけ傾聴の姿勢で困ったことはないか聞き取る。また、保護者へ連絡し、連携する。児童が安心して学べる学級・学校づくりを意識して、全教職員が教育活動を行う。これらの取り組みを通して、みんなが安心して学べる学校にしていくとともに、不登校児童へは学べる環境を整え登校支援をする。 指標 心の天気を毎日確認する。不登校傾向の児童、不登校となっているの家庭と毎月1回以上は連携する。	
取組内容④【2、豊かな心の育成】（集団育成） ◎お互いに認め合える集団育成の推進 各学年・学級の課題に応じて、適切な学年・学級目標を設定し、その達成に向けて、児童一人ひとりが当事者意識を持って積極的に参画する場を設定することで、自己有用感や自己肯定感を高められるようにする。 指標 年度当初に学年目標・学級目標を設定し、学期ごとに、その到達度を集団育成部会や学年打ち合わせで共有する。「思いやり週間」や学級での「良いところ見つけ」などを通して、児童が自己有用感を高められるようにする。学年集会や学年行事を通して、自己有用感を高められるようにする。	
取組内容⑤【2、豊かな心の育成】（人権教育） ◎人権を尊重する教育の推進 様々な人権を尊重する教育を通じて「自他ともに大切である」という心情を培う。また、暴言等を含めて、人が嫌がる行為をしないという教育を徹底する。 指標 各教科横断的に、マイノリティ（障がい者教育、障がい理解教育、国際理解教育等）を理解・尊重する学習や反戦・平和学習を計画的に実施し、豊かな心を育めるような個・集団づくりを進める。また、教職員は、年2回以上人権教育研修に参加し、内容の共有を図ることで、人権意識の向上に努める。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式例 2)

大阪市立南住吉小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における、国語のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より 1.5 ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における、算数のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より 1.5 ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80.1%以上にする。 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 0.02 ポイント向上させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】（授業力向上・国語） ◎主体的・対話的で深い学びの推進 子どもが考えたい中心発問を設定し、自ら内容を読み取り、自分の考えをもつことができる授業の構築を図る。 指標 学期に 1 回、クリティカル・リーディングを学習単元の指導に取り入れる。	
取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】（授業力向上・算数） ◎主体的・対話的で深い学びの推進 子どもに学習の流れの定着を図る指導に取り組む。 指標 小学校学力経年調査における、「学習のふりかえりをしていますか。」に対して、肯定的な回答の割合を 75%以上になるようにする。	
取組内容③【4、誰一人取り残さない学力の向上】（授業力向上・話し合い活動） ◎主体的・対話的で深い学びの推進 自分の考えをもち、自分の考えと比較しながら話を聴き、相違点や共通点に気がつき、考えを深めたり広げたりする学習活動に取り組む。 指標 校内アンケートで「自分の考えを伝えていますか。」「友だちの考えを聞いて、自分の考えと同じところや違うところに気がつくことができましたか。」（低学年）「友だちの考えを聞いて、自分の考えと同じところや違うところに気づき、考えを深めることができましたか。」の項目で、肯定的な回答を 80%以上になるようにする。	

取組内容③【5、健やかな体の育成】（体育の授業・体育的行事） ◎体力・運動能力向上のための取組の推進 専科指導教員と担任との連携を強化し、専門的な指導を取り入れた効果的な体育指導を行う。また、すべての児童が運動に親しむ機会を多く持てるように工夫する。 指標 日々の体育の学習の予備運動の際には、俊敏性や切り返しの力が高まる基本的な運動を取り入れるようにする。また、学期に一回全学年で運動に親しむ機会を設ける。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式例 2)

大阪市立南住吉小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 76.0%以上にする。 ○教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 23 時間以下とする。 ○小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない。」と回答する児童の割合を 28.0%以下にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【6、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 （ICT 活用） ◎单元ごとにデジタルドリルやグーグルクラスルーム、スカイメニューを活用し、各学期末にグーグルフォームでアンケートを行い、状況把握に努める。	
指標 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 76%以上にする。	
取組内容② 【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 （働き方改革） ◎働き方改革の推進 会議時間の短縮、校時の短縮、余剰時間の削減、校務分掌の分担割り振りなど、教職員が仕事を持ち帰らずに実質の負担が軽減できるよう改革を推進する。	
指標 教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 23 時間以下にする。	
取組内容③ 【8、生涯学習の支援】 （読書活動） ◎学校図書館の利用推進 図書委員会による読書推進活動、図書館開放、学級図書の改善、読書ノートの取り組み等を通して、読書活動と図書環境の充実を推進する。	
指標 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない。」と回答する児童の割合を 28.0%以下にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

次年度への改善点